

「青い地球と人を守る」ための 横浜ゴムグループの決意

「強くしなやかな成長」のため さらなるグローバル化を推進

「2017年度に企業価値・市場地位において、独自の存在感を持つグローバルカンパニーを目指す」ことを目標に掲げた当社の中期経営計画「グランドデザイン 100 (GD100)」。2012年度から始まったフェーズIIIでは、事業基盤をより強固にしつつ外部環境の変化にも柔軟に対応できる「強くしなやかな成長」をテーマに掲げました。

2012年は特に、「外部環境の変化」が非常に大きかった年でした。欧州の債務危機は、欧州への製品輸出国である中国経済のみならず、資源国であるブラジルやオーストラリアなどの経済にも少なからぬ影響をもたらしました。また、世界の主要国で政権交代があり、当社が事業を展開する東南アジアでもミャンマーの民主化が急速に進むなど、政治的にも世界が大きく揺れた1年だったと思います。

そんな中、当社は中長期的に大きな伸びが見込める世界的なタイヤ需要に柔軟に対応できるよう、まさに「強くしなやかな成長」を目指し、さらなる事業のグローバル化に力を入れてきました。2013年3月時点で、世界25カ国に現地法人を展開しています。

国連グローバル・コンパクトを行動指針に 人権に配慮した事業活動を

言語や文化、宗教の異なる国で事業を進めていく上では、価値観などの「違い」を受け入れ、人権に配慮しながら信頼関係を構築していくことが非常に重要になってきます。そのためにも、2012年5月に署名した国連グローバル・コンパクトを行動指針として、従業員の一人一人が日々の仕事を行うことを徹底しています。2012年からは、海外拠点におけるCSR担当者を日本に集め、コンプライアンスなどについて問題意識を共有し学びあうCSR研修もスタートさせました。事業を行っているすべての国、地域で同質のCSR経営を実践していくことが狙いです。

また、事業を通じて地域社会全体の発展に貢献できる企業であり続けたいと考えています。例えば、私たちが扱う主要

製品の原料である天然ゴムは、植樹から収穫までに時間はかかるものの、一度軌道に乗れば農家に安定した収入をもたらす、人々の生活レベル向上に大きく寄与できる作物です。私たちが継続的に天然ゴムを購入することが、農家にとっては安定的な収入の確保につながり、私たちにとっては高品質な原料の安定調達につながります。さらには、ゴム農園周辺の生態系にも配慮し、どのような環境影響を及ぼす可能性があるのか現地調査を行っているほか、地域のインフラ整備や地元の子どものための教育支援などの活動にも積極的に取り組んでいます。

人材の多様性を生かすことが 会社としての成長につながる

これまで海外拠点での従業員採用は、すでに一定の経験を持つ人材の「キャリア採用」が中心でしたが、2012年からは未経験者を雇用し、育てていくことを視野に入れて新卒者採用を始めました。地域の人材を育成し、技術や能力を身につけてもらう。そのような地域社会貢献の形もあるのではないかと考えています。

横浜ゴム本社で採用する新入社員についても、事業のグローバル化に対応できる人材の育成を念頭に、2～3カ月の海外研修制度を設けています。研修に参加したことによって「将来は海外で仕事をしてみたい」と考える従業員の割合が大きく増えるなど、海外への「ハードル」が低くなったことが、その大きな成果です。気概を持って、よりいっそう多くの従業員に国境を越えて活躍してもらいたい。特にマネジャークラスについては、例えば日本人がアメリカの拠点で働いているように、アメリカ人がタイの拠点でマネジャーを務めるなど、国境を越えて人材を活用できる、グローバルな人事体制の整備にも取りかかります。

人材の多様性は、国籍ではありません。障がいの有無や年齢にかかわらず、能力を生かせる場の創出にも力を入れています。2011年12月に障がい者雇用の特例子会社「ヨコハマピアサポート」を設立したのに続き、2013年4月には、定年退職者が当社グループのために働ける場として、「ヨコハマビジネスアソシエーション」を設立しました。退職後の従

業員を正社員として再雇用し、定型業務の支援や人材育成、ボランティア活動などの社会貢献にも積極的に参加してもらおうと考えています。能力や意欲の高い人には、70歳まで継続して働いてもらえるような仕組みも検討しています。ベテラン従業員の高い技術力や豊かな経験を埋もれさせずに積極的に活用していくことは、雇用の場の拡大だけでなく将来的に予測される労働力不足への対応にもなります。これまでは、優秀なエンジニアが退職後に海外企業に転職するケースが目立ちましたが、その方たちに当社で活躍していただくことは、今後のグローバル化の波に対応していくために不可欠であり、高付加価値の製品づくりにも寄与していけるはずだと考えています。

さらに、社内を見回してみると、安全活動の権威として社外でも活躍している従業員や、CSRの一環として取り組むYOKOHAMA千年の杜プロジェクトを通じて植樹や樹木育成についてプロ並みの知識を身につけた従業員など、高い専門性を持つユニークな人がたくさんいます。そうした多様な人を、今後もっとさまざまな形で生かしていくことが、横浜ゴムという会社をもっと成長させることにつながるのではないかと考えています。

「青い地球と人を守る」 この価値観を大事に、企業価値の向上を目指す

当社のタイヤ主力製品のひとつ、「BluEarth」が掲げる「青い地球と人を守る」というメッセージは、そのまま横浜ゴムという会社が社会に発信していきたいメッセージでもあります。

社会の皆さまが求める製品を、最も効率よく、できるだけ少ない材料と少ないエネルギーで製造する。地球環境にとっても、人にとっても価値のある商品を提供し続けることで、社会から「横浜ゴムがないと困る」と言っていただけるような会社でありたい。そのためにも、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを重視し、社会から何を期待されているのか、常に耳を傾けながら行動し、信頼関係を構築する中で企業価値の向上につなげていきたいと考えています。

代表取締役社長

野地彦旬